

実施計画事業名		外国語教育強化事業		評価対象年度	平成 22 年度			
評価担当部署		教育部 学校教育課		課長(主幹)名	青山 等			
総合計画体系	分野	1	教育・文化					
	政策	2	時代に即した学校教育の推進					
	施策	2	確かな学力の定着を図ります					
	関連施策							
現状と課題	国際教育の推進を図るため、平成15年にJETプログラムによるALT(外国語指導助手)1人を配置し、平成17年からは2人体制とした。平成17年度から、小学校の英語教育の推進を図りながら、中学校の英語教育への関心や意欲を高める取り組みを行っている。							
目的	児童生徒の国際感覚を養い語学力の向上を目指し、小中学校などにおける外国語授業の強化を図る。							
5ヶ年展開の	ALT2名体制を維持できるよう努めていく。また、ALTの資質向上を図るためのワーキング会議を開催する。 ①小学校では、「英語を楽しむ」「英語を好きになる」ことを基本に総合的な学習の時間を利用して英語教育が推進する。②中学校では、外国語担当教員とTT(ティームティーチング)で、コミュニケーション活動のアドバイス、英文作成等の個別指導を実施する。							
成果指標	名称		単位			21 年度	22 年度	25 年度
	ALT(外国語指導助手)授業時数		時間		目標	660	660	660
説明	ALTの年間授業時数				実績	661	755	
	名称		単位			21 年度	22 年度	25 年度
活動指標	ALT(外国語指導助手)訪問学校数		校		目標	20	19	19
	ALTが訪問する学校の数(実数)				実績	20	19	
説明	ALT(外国語指導助手)の市民講座等での外国語指導の回数		回		目標	55	55	55
	ALTの市民講座等での外国語指導の回数				実績	56	67	
				目標	-	-	-	
説明				実績				
				目標	-	-	-	
説明				実績				
事業費の実績		単位	21 年度 (決算)	22 年度 (評価年度決算見込)	23 年度 (予算)	備考		
	直接事業費(A)		千円	9,571	9,416	10,895		
	国庫支出金		千円	0	0			
	道支出金		千円	0	0			
	起債		千円	0	0			
	その他		千円	0	0			
	一般財源		千円	9,571	9,416	10,895		
	この事業にかかる職員数		人/年	0.12	0.12	0.12		
人件費(B)		千円	831	815	815			
計(A+B)		千円	10,402	10,231	11,710			
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化 ALT(外国語指導助手)による小学校での英語教育が増えており、やや中学校での日数、授業時数は減っている。							

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	a a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する>
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
コスト効率	a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総合評価	A 概ね問題なし <A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 児童生徒の国際感覚を養い語学力の向上を目指し、小中学校などにおける外国語授業の強化を図るため、引き続きJETプログラムによるALT(外国語指導助手)を配置する。

【2次評価】

成 果	a	細事業の構成	a	細事業の進め方	a	コスト効率	a
総合評価	A 概ね問題なし <2次評価者の視点からコメントを記入する> 1次評価のとおり取り進めること。						

【内部評価委員会】

意見	
----	--